

## 戦前の文学作品紹介ポスター

～東北ゆかりの文豪たちを取り上げる～

A2201405 及川 香純

### 研究の概要

近年、インターネットが普及し、文学作品がどこでも読めるツールが多く存在するようになった。しかし、そのような環境にあっても、若者の活字離れが叫ばれていて、特に文学は著しい。その原因の一つに、文学作品に触れる機会が無いことがあげられると考えられる。インターネットの利用が多くなり、出版業界においてもバナー広告や動画広告などに注目が集められているが、それらの広告は能動的なものが多く、興味がないものは表示されず、場合によっては非表示にすることさえできてしまい結果的にはさまざまな情報に、触れる機会が減っているのではないかと思う。

そこで、本研究では、どこにでも貼れるため目に入る頻度が上がり、特別な機器が無くとも情報が発信することができ、またそれにかかる費用を抑えられるポスターを用いて文学作品に興味を持つ機会を提供したいと考える。

### 研究の目的

本研究では、紹介作品の作者を東北出身者に絞り、東北の若者にも伝わるようなポスターを制作する。

書店においてデジタル機器の普及により、本の内容が瞬時にわかるようになった。ポスターは私たちが生活する中で様々な場所で目にするほど生活の中に溶け込んでいる。この研究では、地域の書店や図書館などの公共の身近な場所でも使用できるようなポスターを制作し、文学作品を広める機会を作る。

デザインの方向性は、発行当時の印作物の傾向(当時の流行色や、モチーフ)を元に、文学作品の一文をポスター内に構成し、視覚的展開をしていく。

### 研究のプロセス

5月～8月 サンプル制作及び研究内容決定

文学作品を紹介にするにあたりポスターを制作することに決定

8月 プレ中間発表

研究内容の再考

地域を限定せずに文学を紹介していた  
→ポスターのターゲットを東北の若者に絞り、身近に感じてもらうために、東北出身の作家の作品を紹介するに決定。  
作品の一文をポスター内に構成することに決定

9月 アンケート調査 (学外 60人対象)

2点の作品を見せ、どちらがより文学作品にあっているかという質問を世代別に行った。



ターゲットを若者にしたことにより、世代別に色の好みに差異はあるか調査

→好みに大きな差異はなく、年齢に関係なくやわらかい色のほうが好まれた。

10月 中間発表

題材決定

作品の知識を深める

11月 アンケート調査（学外 34人対象）

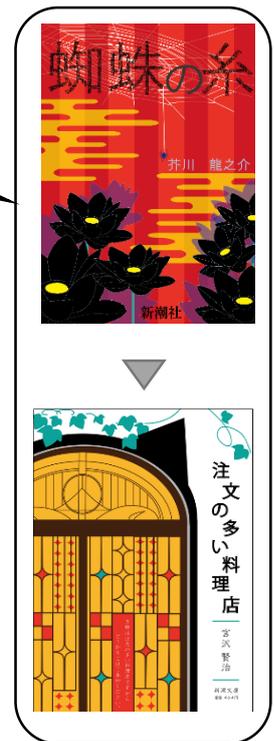
本の紹介ポスターが貼ってあった場合、購買意欲につながるかという質問をした。

→つながるという回答のほうが多かった。

12月～1月 ポスター制作

### 成果物

- 以下 10 作品のポスターを制作
- 本の一文をポスター内に構成
- 作品が書かれた時代の流行色をポスター内に取り入れる  
(例 1915年 牡丹色、緑、紫 など)



東北出身の作家と紹介する作品

太宰治 『走れメロス』『女生徒』『人間失格』

宮沢賢治 『よだかの星』『セロ弾きのゴーシュ』『雪渡り』

志賀直哉 『城の崎まで』『暗夜行路』

横光利一 『機械』

小林多喜二 『蟹工船』

### 考察

今回の研究で、戦前の文学作品を取り上げたことにより、発行当時の印作物の傾向を使い、過去の作品を現代の人に伝わるように制作することを考えると共に情報伝達の難しさを改めて実感した。どうしたら作品の良さをポスター内に表現し伝えられるかという部分に悩み、伝えたいことを明確にビジュアル化ができなかったことが反省点である。

この 10 点の制作から学んだことを今後の制作に活かしていきたい。